薬だつ知識

正しく使用し予防を

49.喘息と吸入薬

気管支喘息は、気道という空気の通り道に炎症が続くことで、刺激に敏感になり、気道が狭まる病気です。

喘息の症状は、夜間や早朝に出やすいのが特徴で、ゼーゼー、ヒューヒューと息が苦しくなり、せきやたんが出ます。これを喘息発作と呼びます。

主な治療薬として、口から薬を吸入し肺に直接届ける「吸入薬」があります。そして吸入薬は、大きく三つに分けられます。

加圧噴霧式定量吸入器はガスの圧力で薬を噴霧するもので、吸入するタイミングを合わせて吸い込みます。

二つ目はドライパウダー定量吸入器で、粉末になっている薬を自分のタイミングで吸い込みます。三つ目はソフトミスト定量吸入器で、ゆっくりと噴霧される薬を吸い込むタイプです。

また、噴霧される薬を吸入する際、タイミングを合わせるのが難しいという患者さん向けには、吸入を補助する「スペーサー」があります。定期的に吸入することで発作が予防できるとされています。しかし、せっかく効果的な薬が処方されても、吸入薬をうまく使用できないと、喘息の状態が悪くなり、発作を起こすことがあります。

吸入薬の種類も増加していて、ゆっくりと大きく吸う薬、強く早く吸う薬、毎日予防で吸う薬、発作時に吸う薬など種類が多い上にデザインや操作方法が薬ごとに違うため、患者さんが正しく使用できるかがとても重要になります。

薬剤師は薬剤のプロフェッショナルとして、患者さんが薬を正しく使えるよう支援する中心的役割を担っています。吸入薬の使い方が分からない、正しく使えているか確かめてほしいという患者さんは、ぜひかかりつけ薬剤師に質問をしてください。

（鹿児島県薬剤師会常務理事・田中孝明）

喘息の吸入薬は使用法に応じた正しい使い方を心掛けて

「薬だつ知識」は毎月第2金曜日に掲載します。

くらし面への投稿、意見は〒890-8603　南日本新聞社文化生活部（住所不要）、電話099(813)5133、ファクス099(813)5180、メールkurashi@373news.com

「令和３年１１月１２日（49.喘息と吸入薬）」